

令和2年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書

【工学部】

①学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和3年5月20日（木）	CHAmmit参加者（教職員含む）及び学生スタッフ、令和3年度学生スタッフ、工学部FD委員会委員長、FD委員会副委員長、教務課の計14名が面接形式にて1時間10分程度、学部提案書について意見交換を行い、回答内容を共有した。

②改善点について

項目	実施済	検討中	実施不可	実施内容
・教員のPCスキル向上の工夫	○			令和2年度はコロナ禍の中、遠隔授業のコンテンツ作成を行ってきたが、大学として複数回に渡ってFD活動の一環として「オンライン授業に関するシンポジウム」やZoomの操作方法に関する講習会を行うなどしてスキルアップに努めており、令和3年度の授業展開を行っている。
・授業及び課題形式の統一化		○		遠隔授業の実施に伴い、ポータルサイトやgoogleサービス、またZoom等それぞれのメリットを活用しながら授業展開を行っている。将来的にポータルサイトのバージョンアップを予定しており、新システムにより学生がより体系的に学修できるよう計画を進めている。
・学生同士の交流の場の不足解消	○			令和3年度は令和2年度よりも面接授業を増やし、学食においてもフロア全席に飛沫防止パネルを設置し、また図書館の自習スペース等、感染防止対策を講じながらキャンパス内で学生が交流できる機会を増やしている。
・出席確認の統一化		○		面接授業と遠隔授業による即時反映の問題、また遠隔授業においては科目の内容により教育効果に配慮した確認方法としており、将来的にポータルサイトのバージョンアップを予定しており、学生の負担が軽減できないか検討する。
・課題提出先の統一		○		ポータルサイト、google classroom、Zoom等を使用しそれぞれのメリットを活用しながら授業を展開し、課題提出も教育効果に配慮した提出先となっている。将来的にポータルサイトのバージョンアップを予定しており、新システムの機能で統一が図れるか検討する。
・面接授業を録画して配信		○		撮影方法、機材、撮影者の選定等の課題があるが、一部の授業で、面接に出席できない学生向けに別途撮影した録画を配信している。
・出られる学生は面接授業で、出られない学生はカメラオンで	○			コロナ禍における授業展開において、実施している。
・先生方が分かるように学生も反応する	○			ライブ授業であれば、教員が許可した時間帯に質問（チャット含む）を受け付けたり、「反応」機能を利用して双方向性を実現することが可能である。
・編集技術向上	○			昨年度の遠隔授業の経験を踏まえ、オンライン授業に関するシンポジウムやZoom操作講習会等を経て、令和3年度においては昨年度以上の授業コンテンツの展開を継続する。
・アンケートの反映	○			授業評価アンケート、学修満足度向上調査結果についてはそれぞれ委員会内で結果について報告を行っており、各教員には自由記述内容（回答学生氏名は非公開）等、改善について依頼を行っている。

令和2年度 学生FD CHAmmiT 学部提案書に基づく改善報告書

③今後の要望について

項目	実施済	検討中	実施不可	実施内容
・課題の提出期限や配信時間の統一・調整	○			課題の提出期限については、ネットワーク障害等事情があり提出が困難な学生には、締切後の提出を認め配慮するよう工学部のガイドラインにおいて全教員に周知している。 また、授業評価アンケート結果で課題の分量が多すぎるとの意見があったことから、教育目標に照らし適切な分量とするよう全教員に周知している。
・面接授業の録画配信		○		撮影方法、機材、撮影者の選定等の課題があるが、一部の授業で、面接に出席できない学生向けに別途撮影した録画を配信している。
・工学部内でのCHAmmiTのような機会		○		「学生FD活動推進プロジェクトチーム」のメンバーまたは予定メンバーと、コロナ感染状況等を踏まえ、交流行事の実施について検討する。
・他学部他学科の授業も履修したい	○			日本大学では、「相互履修制度」があり、学部を超えて他学部の授業を履修できる制度があるが、面接授業を念頭に置いたものであり、コロナ禍により受入れを停止している学部も多く、履修についての案内があった場合にはポータルサイトから周知する。
・ハイブリッド型にしてほしい	○			科目により、昨年度は完全遠隔授業であったものを授業初回及び終盤回を面接授業とするハイブリッド授業を行うなど、教育効果及びキャンパス内における入構者数制限や感染対策を両立させながら授業を実施している。
・遠隔でできるものは積極的に遠隔を	○			面接と遠隔について両方の意見があることから、当該科目における教育効果や、キャンパス内における入構制限等に鑑みながら、遠隔授業と面接授業を実施していく。
・学修スペースの開放	○			コロナ禍の現在、70号館3階のライブラリーについて、自宅にネットワーク環境が整備できない学生向けの学修スペースとして使用でき、また、入構制限やコロナ感染対策における行動履歴が管理できることから、図書館1・2階のラーニング・コモンスのスペースも利用可能としている。
・オンラインならではの他学部交流	○			令和2年度は、「自主創造の基礎2」における「ワールド・カフェ」や、本FDCHAmmiTにおいて、Zoomを使用し学部間交流が行われたことから、令和3年度についても継続される見込みである。

④改善や要望を受けて、工学部から学生へのメッセージ

コロナ禍にあって学生さんは、行動の制限や慣れない遠隔授業等で不安な日々を過ごして来られたことと思います。一方、教員も同様に試行錯誤しながら授業コンテンツの作成を行ってきた所もあり、ご不便をおかけした部分もあったと思います。

今回、ご提案いただいた点につきましては、実施済の内容、また負担増や使用しているシステム等の問題で実現が難しいものもありますが、今後も遠隔（オンライン）授業のメリット、そして面接授業のメリットそれぞれを生かしながら、コロナ収束後の授業形態も含めてFD活動を通じ、学生さんの意見を取り入れながら、より皆さんの学修効果が上がる授業手法、形態を探っていきたく考えております。